

良子さんの ほっと一息ティータイム

どくだみの花は白い十字架

熊谷 良子 vol.26

雨上がりの晴天に勢いづくどくだみは、隙間に根を張り巡らすので悩みの種です。

どくだみは、雑草と見れば、“やっかい”な存在ですが、

薬草と捉えれば、殺菌・抗菌効果があり、利尿作用や便秘解消、血圧調整などに加え、美肌効果も期待されるほどの効能、効果があるといわれます。

一輪挿しのどくだみの花の佇まいには、清楚さと気高さがあります。

体育教諭だった星野富弘さんは、指導中の事故によって首から下の自由を失いました。

口に筆をくわえて詩と絵を描きはじめた星野さんは、詩画集『風の旅』（立風書房）の中で、どくだみの花は「白い十字架に似ていた」と表現しました。

「白い十字架」は、どくだみの花そのものでもありますが、

「臭いといわれ きらわれもの」のどくだみの花を

大切に摘んでゆく人の姿が「白い十字架」の崇高さに重なったのでしょう。

そして、詩にした星野さんにも神々しいベールのような光が注がれているようです。

さあ、夏が来た！

詩のころをもつて、小さな花たちをいとおしみながら、元気に過ごしましょう。



2024. 7. 1